



5日14日、岩根中学校のご協力をいただいて大地震発生後、大津波警報発令を想定した避難訓練を実施しました。岩根中学校でも同時刻に大地震発生を想定した避難訓練を実施することにして、事前に両者で打ち合わせをしました。この訓練は、数年前から合同で行なっています。その度ごとに振り返りをしてより現実的な避難訓練するように協議を重ねてきました。当日は、岩根保育園から岩根中学校まで5分、3階の最終避難場所まで約10分で避難することができました。年々、避難に要する時間が短くなっています。これ以上は短くなることはないと思います。今後もあらゆる場面を想定し、園児が無事に避難できるように保育園職員が手順等の訓練をしていきます。訓練終了後は、中学生が階段を降りる子どもたちをサポートしてくれ、とても助かりました。先日、非常時についての文書を配布しました。高柳小学校では、災害時の引渡し訓練を行なっています。保育園では、就労支援という機能上、同様の訓練をしていません。無事に避難をしたが、その後の保護者への引渡しがスムーズにいくか気になるところです。今後の課題としていきたいと思えます。先日の避難訓練の様子を乳児クラスの保育日誌からお伝えします。

《たんぼぼ組》

10時40分に大地震発生の放送が入り、避難訓練が始まった。1名発熱で欠席のため29名で行なった。放送に驚いて大声を出す子や怖がっている子がいたが、保育者の話を良く聞いて傍に集まることができた。初めて部屋で避難用の靴(普段は裸足のため)を履いて、カラー帽子をかぶり避難車に乗った。靴は事前に一人一人サイズを合わせて個人用のシールを張っておいたので、履く靴がわかり、一人で履けた子もいた。園庭に避難した後、大津波警報が発令され中学校に向かった。校舎裏の西側階段裏口に行き、避難車を降りた後は自力で階段を上った。裏口と階段は段差が大きく、子どもたちはとても上がりづらそうであった。手摺を持つとしても身長の子は手が届かず、保育者が傍についたり、手をつないだりして上がった。たんぼぼ組が待機する部屋に入り、点呼をした際に1人いないことに気づいて探しにいくと、隣のちゅうりっぷ組、きいろ組が待機する部屋にいた。この時、とても焦ってしまった。避難訓練終了後は、中学生に手をつないでもらいながら階段を下りた。下りる時に中学生はこどもを手摺側にしてくれたり、子どもたちと同じ目線になるようにしゃがんで話し掛けてくれたりする中学生が多かった。下りる時にサポートしてくれてとても助かった。振り返ってみると、やはり階段を上ることが大変で、一列に並んで上がり始めても途中で間が開いてしまった。また、1人が違う部屋に入っているのに気がつかず担任間で混乱してしまった。今回の反省を生かし、担任間の連携をしっかりと取ったり、避難の流れを頭に入れておいたりして、いつ災害が起きても対応できるようにしたいと改めて思った。

このほかに0歳児組、1歳児組の避難の様子もお知らせしたいのですが、紙面の関係で別の機会に譲ります。0歳児はおんぶひも、ベビーカーを使い、1歳児は避難車を使って避難しました。3歳以上児は自力で避難しました。

園長 平野弘和